

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0193600053		
法人名	株式会社 二千翔		
事業所名	グループホーム ほたる		
所在地	苫小牧市拓勇西町4丁目19-27		
自己評価作成日	平成30年2月15日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2017_02_2_kani=true&JigyosyoCd=0193600053-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 マルシェ研究所
所在地	札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	平成30年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>理念《ありがとう 言われるよりも伝えたい》</p> <p>人生の先輩たちに、敬意をもって、日々ありがとうと感謝を伝えられるような支援を目指しています。</p> <p>ご家族様参加の行事は、事業所の都合ではなく、皆さまにアンケートをとり、日にちや内容を決めています。いつでも足を運びやすいように、近況報告のお手紙や、電話など、全職員がご家族様との関係作りにも努めています。どんな状況になろうと、此処を終の棲家として、安心して暮らせるように、ご家族様にとっても、実家のような心地よさを感じて頂けるように、全職員が理念を基に取り組んでいます。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>グループホームほたるは開設から12年目を迎える2ユニットの事業所で、開設から携わっている管理者を始め、3年以上勤務の職員及び有資格者が8割以上在籍し、利用者の馴染みの関係と安心できる暮らしを支えています。新興住宅街あり、事業所前には広々とした公園があります。利用者は四季の移り変わりを感じながら、子供達や地域住民との触れ合いの時間として散歩を楽しんでいます。管理者は利用者の尊厳を重んじ、事業所理念の基本である「ありがとう 言われるよりも伝えたい」を確実に浸透させるよう職員と共にケアサービスの実践に日々努力しています。事業所は地域貢献として、職員が毎年小学校に出向き、認知症キッズサポーター養成講座を開催したり、小・中学校の職業体験も受け入れています。利用者は子供達の訪問を歓迎し、敬老会や誕生日に保育園児が訪れ歌を披露してくれる等、心むく交流を深めています。利用者の憩いのひと時となるよう、楽器演奏や演舞、セラピーマッサージ、メイク等のボランティアを受け入れて、メリハリの有る暮らしを目指し支援しています。事業所は開設時より看取りに取り組んでおり、職員はスキル向上に励み、医療機関と連携を図りながらターミナルケアに対応できる体制を整備し、利用者、家族の望む終末期を支援する等、職員は終の棲家として利用者と共に過ごし支え合う関係性を築き生活の質を高めています。</p>
--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)		※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します	
項目	取組の成果 ↓該当するものに○印	項目	取組の成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11、12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で作成した理念を、来客者や家族にも目につきやすいように玄関に提示している。また、毎回ではないがミーティングの時等、再確認し、日々のケアに活かせるよう努めている。	理念の「ありがとうと言われるよりも伝えたい」は、管理者が目指すサービスのあり方を端的に示したものです。職員は日常業務の中やミーティングで理念を振り返り、介護の拠り所として共通認識に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校の授業の受け入れや、保育園児の来設など、交流している。	職員等が毎年、小学校に出向き認知症キッズサポーター養成講座を行い、啓発や地域貢献に努め、小学校の課外授業や中学校の職業体験も受け入れています。セラピーマッサージ、メイク、楽器演奏、演芸等のボランティアや保育園児の来訪があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校へ出向き、職員の寸劇を加えたキッズサポーター養成講座を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	日常的な活動や、評価への取り組みを報告し、会議議事録を職員全員が把握し、検討している。	行政、地域包括支援センター、家族代表の参加があります。運営や利用者状況、事故報告に意見を受けています。開催時に避難訓練も実施し、課題解決に向け検討しています。しかし会議には地域住民の参加が得られていません。	地域との交流や災害時支援の充実を図る上でも、町内会への加入を検討すると共に、地域密着型サービスの知見者としてなど、幅広い立場の人の参加を積極的に働きかける事を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や避難訓練に参加してもらったり、サポーター養成講座に協力する等、関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議では行政担当者に事業所の現状を伝え、助言を受けています。事故報告書の提出や行政支援の職員採用等の相談や報告も管理者が担い課題解決の協議を行っています。市の福祉行事参加やサポーター養成講座への協力等を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日頃から、何が身体拘束の当たるのかを話し合える環境を作っている。リスクを話し合い、夜間以外は施錠しないなど、拘束の無いケアに取り組んでいる。	マニュアルを整備し、関連事業所との合同研修会やミーティング時に身体拘束や虐待をしないケアのあり方を学び、理解に繋げています。不適切な対応が見られた場合は、管理者や職員間でも注意し合える関係作りに努めています。居室内でのセンサー使用はカンファレンスで協議し、家族の理解を得ています。玄関は夜間のみ施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について話し合い、理解を深め、防止に繋がるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修など、全員が学ぶ機会はず、全員が理解しているとは言い難い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時や、契約時に詳しく説明し、不安や疑問点を話し合い、理解して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アイデア募集の箱を玄関に設置している。日々のケアの中で、ご本人の意向を探り、ご家族面会時に積極的に話し合えるように努めている。	毎月、担当職員が利用者の様子を写真や手紙で家族に報告し、健康状態や暮らしぶりを伝えていきます。来訪時や電話連絡時、介護計画見直し時にも、利用者の状況を伝え、意見や要望を聞き取り、サービスに活かしています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングだけでなく、いつでも話しやすい環境を整え、個人の意見も聞けるよう、面談の機会を設けている。	管理者は、日常業務やミーティング、個人面談、職員の交流食事会等で職員の意向や提案を聞いています。資格取得やシフト調整等の要望に応え、働きやすい環境作りに努めています。職員も備品や食材、薬などの発注や行事係り等を担い、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実績に応じて昇給を検討し、介護職員遭遇改善交付金を活用している。福利厚生を利用し、職員間の交流を図り、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの資格や実績に見合った研修を受けられるよう配慮し、福利厚生を利用して、個々のスキルアップを図れるように努め、ている。ホーム内での勉強会も実施予定。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他のグループホームと合同の勉強会を開き、交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時に本人を含めご家族とにお会いし、不安や心配を取りのぞくよう努め、入居時には全員でアセスメントを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時にご家族に施設を見学して頂き、話し合いを重ね、不安の解消に努めている。入居開始時より、毎月のお手紙で近況報告を行い、来訪時や電話などで話す機会を設け、信頼を築けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個人の情報を基に一人一人に添った対応に努めている。また、ご家族と連携を取り、今までの生活環境や、これからの要望を聞き、その時必要な支援ができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念の基づき、ボランティアにならないよう、同じ目線に立ち、無理の無いよう、できる事を見極め、自立に向け支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族会には一人でも多く参加して頂けるよう、アンケートにて開催日を決めたり、いつでも足を運びやすいよう、手紙で近況を伝えたり、共に支えている関係の構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた時は落ち着いて話ができるよう、好きな場所でくつろいでいただけるよう配慮している。また、なじみの場所へ訪問できるよう支援している。	利用者の高齢化や入居期間が長くなるにつれ、入居前からのつながりに関する要望が少なくなっています。家族や友人、知人の来訪を歓迎し、お茶でもてなしています。金融機関や馴染みの商店に同行支援しています。墓参りは家族と共に出かけています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の現状を把握し、孤立しないよう職員が間に入り会話をしたり、リビングのレイアウトを変え、居場所を確保できるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去先からの相談に応じるなど支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当者制度を設け、より個別のニーズを引き出し、対応している。また、毎月のカンファレンスで意見を出し合い、検討している。	利用者からの要望はほとんど聞かれませんが、担当職員を中心に会話や表情、動作から利用者の要望を察するよう取り組んでいます。情報は経過記録に記載し、ミーティングやカンファレンス時に職員間で話し合い、利用者の満足感に繋がる支援に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常生活の中で本人との会話やご家族との会話をアセスメントや経過記録に記載し、全職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に気を配り、個別にアセスメントや経過記録にて全職員が周知し、状態の把握に努めている。また、必要に応じ認知症状況シートを全員で作成している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月全員でモニタリングを行い、家族も参加できる担当者会議を開催している。また緊急時には臨時でカンファレンスを行い、期間に関わらず介護計画を見直し、作成できるようにしている。	モニタリングは毎月全職員で行い、利用者の全体像を把握し、変化の兆しをチェックしています。介護計画の見直し時には、家族に担当者会議への参加を促して要望を確認しています。また、センター方式の24時間アセスメントシートを活用し本人本位の計画となるようにしています。定期見直しは4か月毎に行っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し、申し送りを行い、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日ごろより臨機応変を心がけ、一人ひとりに合ったサービスができるように配慮している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防の協力の元避難訓練を行っている。また、訪問理美容や、ボランティアでメイクやセラピーマッサージにも協力を得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームの主治医と訪問看護で健康管理を行ったいるが、希望に応じた病院受診ができるよう支援している。	協力医療機関の月2回の往診を全利用者が受けています。歯科や皮膚科も希望に応じ往診に対応しています。かかりつけ医や他科の受診は家族や職員が対応しています。週1回看護師の定期訪問に加えて、24時間オンコール体制が整い、適切な健康管理を図っています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週一回の定期訪問を実施し、24時間体制で相談ができるよう連携している。また、必要時には個別に訪問し看護が受けられるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院関係者と情報交換し、ご家族の希望や了承を得たうえで、医師に病状説明や治療計画を受け、ご家族も含めて話し合い、早期退院に向け支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護の方針を説明し、重度化した際には、主治医・訪問看護師と連携し、本人・ご家族の希望を聞き、状況に合わせて話し合い、看取りまで取り組んでいる。	事業所は利用者にとって終の棲家になるように、終末期支援に取り組み、多くの看取りを経験しています。入居時に、重度化対応の指針を説明し、「急変時確認書」に同意を得ています。危篤時には再度看取りの意思を確認し「看取り介護についての同意書」を交わし、医師、看護師、職員とで方針を共有し、チームケアで臨んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に一度応急手当の訓練を実施している。また、起こりうるであろう事を想定し、訓練を行う予定。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二階の避難訓練を実施し、非常持ち出し袋を用意している。	夜間想定避難訓練を年2回、消防署員、防災設備会社の立ち合いで実施しています。救急救命訓練指導資格取得の職員から指導を受けています。消防用設備の定期点検及び非常用備蓄品、非常用持ち出し袋も準備しています。	火災訓練には取り組んでいますが、地震、台風、風水害、停電などのあらゆる災害に備えた実践的訓練には至っていません。また、災害時は地域の支援が必要ですので、参加協力の要請を呼びかけ、地域との協力体制の構築に期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を基本とし、一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した対応を行っている。	職員は、内部研修で接遇マナーを学び、利用者への尊厳を念頭にケアに努めています。名前は「さん」付けで対応する等、言葉遣いも十分配慮し、利用者の状況に合った声掛けを行っています。入浴などは希望によって同性介助で支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で、1人一人に合った伝わりやすい言葉を選んで接し、個々に合わせ、選ぶ場面を作っている。思いを声に出せるような環境に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	入居者様優先を心がけ、急がせずゆっくりと、一人ひとりに合わせた対応ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を利用し、個々の希望に添うよう支援している。また、日々の整容や着替えの時など、本人と一緒に選ぶ支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は外注しているが天気や行事などで、献立を変えたり、時には外食したりしている。また、できる方とは一緒に準備等している。	献立と食材は業者から届きますが、月に10回程は利用者の要望に応じて、独自の献立を職員が準備し満足感に繋げています。誕生日や季節行事では担当職員を中心に、出前やケータリング、外食等を取り入れ、変化をつけて食欲を高める工夫に取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要量確保できるよう配慮し、その時の状態に合わせた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は行えていないが、個々に合わせて、歯磨きや口腔ケアを歯科医師の指導の下行っている。また拒否のある方には、歯磨き用のガムやタブレットなど工夫している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、自立に向け、時間ごとの促し、誘導をし、必要時介助を行っている。	利用者全員の排泄状況をチェックし、トイレ誘導や声掛けを行い、トイレでの自立排泄に取り組んでいます。衛生用品の使用時は、衛生用品の形態や使用時間帯など職員間で検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便を確認し、薬だけに頼らず、乳製品や食物繊維を摂取できるよう配慮している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	1人一人の希望に添えるよう、同性介護を行ったり、プライバシーに配慮し、安全に入浴を楽しめるよう努めている。	入浴は、二人介助や同性介助等の要望を取り入れて、週2回以上を目安に支援しています。湯船にかかる事が難しい場合は、足湯をしながらのシャワー浴を行っていますが、その場合には浴室を十分に温めるようにしています。入浴中は会話も弾み楽しんでます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転しないよう、日中は活動の声かけを行い、本人のペースに合わせている。眠れない時は一緒に過ごす等安心できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストを全職員が把握でき、誤薬防止のため本人と一緒に確認しながら服薬している。症状の変化に気を配り、職員一人一人が医療関係と相談できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人一人に合わせた趣味のドライブや、好きなテレビ番組を録画したりなど、楽しめるように支援している。			
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	1人一人の希望に添って、外出などしている。1階・2階合同で出かけたたりもする。外出が困難な方はテラスで日光浴など気分転換ができるよう支援している。	事業所前には広い公園が有り、暖かい時期には散歩に出かけ子供達との触れ合いや季節を楽しんでいます。2ユニット合同の企画で、他の公園などに出かけています。大型店での写真展見学やペットショップ、道の駅等への買い物等、気分転換や自立を保つ支援に取り組んでいます。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人・ご家族の希望により所持している。買い物の際は職員が付き添い、本人に支払いをして頂いている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や状態によりその都度対応している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースは入居者のその時の状態により、レイアウトを変え、過ごしやすく工夫している。温度計・湿度計を設置し、居心地良く暮らせるよう配慮している。	玄関外のスロープから事業所内までバリアフリーの構造で、車椅子でも出かけやすい設計になっています。居間は多くの窓が配置され、明るい陽射しが入ります。異臭や騒音も無く、温度、湿度にも配慮しています。トイレ清掃もチェック表で管理しています。居間や廊下の壁には、絵や季節の飾り付け、笑顔の写真展に出品した利用者の写真等が飾られて、癒される空間となっています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを一か所に集中させず、点在させることにより、個々が好きな所で、思い思いに過ごせるように工夫している。また、気の合った方同士、居室の行き来もされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの家具や写真など、本人やご家族と相談して持ち込んで頂いている。居心地の良い居室づくりに配慮している。	居室には大型のクローゼットが設置され、収納力があります。居室入口には、職員が利用者の希望を取り入れて作った表札が飾られています。ベットや筆筒、テーブルに椅子等の調度品や大切な仏壇、棚や壁に趣味の自作品を飾りながら、自分らしく暮らせる居室となっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室に表札を設置している。行動に不自由がないよう配慮し、必要時には付き添い一緒に過ごすようにしている。			